

# キッズプログラミングアカデミー ～子どもたちに楽しいプログラミング教育を!～

団体名●キッズプログラミングアカデミー／代表者名●山岸千織(人間科学部こども学科2年)

## はじめに

プログラミング教育は2020年度より、小学校で必修化された。しかし、実際の教育現場では十分にタブレットをさわったり、ロボットなどの制御を体験したりする機会の場が少ない。そこで、私たちは大学で学んだ知識を生かして近郊の小学校、幼稚園で出前授業を行い、子どもたちが経験する機会を設けた。

私たちはプログラミング教育についての情報を集め、その教え方を学び、子どもたちがプログラミングの面白さや仲間と協働する楽しさを感じることが出来る授業をすることを活動の目標とした。

## 活動内容

昨年度は小学生を対象に行っていたが、今年度は、幼稚園の年長にも対象を拡大して、プログラミングの出前授業を行った。小学校ではレゴのEV3、幼稚園ではOzobotというロボットを教材とした授業をつくり、実践した。

出前授業を行った小学校は、諸江小学校5、6年生7クラス、中央小学校6年生3クラス、四十万小学校6年生3クラスである。

幼稚園は星稜幼稚園、星稜泉野幼稚園の年長それぞれ2クラス分に、30分間の授業を週1で5回行った。



Ozobot で遊ぶ園児達

## 成果、結果の考察

成果として、小学校は授業後のアンケートの結果からみると、プログラミングをしてみても「すごく楽しかった」と答えた児童は全体の約9割であった。児童にプログラミングをすることの楽しさ、面白さを伝えることができたと思っている。また、協力することが「よくできた」と回答した児童は全体の7割であった。この結果を見て、もっと友達と協力をするための声掛けや授業内容を改善することが必要になると感じた。

幼稚園では、アンケートを取ることができなかったが、出前授業を年長さんにして思っていたことは、難易度を下げればよかったと思った。Ozobotを操縦するシールを貼ることに苦戦する子どもが多くいた。例えば、「右と左の区別がわからない」や、「シールをきれいに貼ることが難しい」などの点である。このことから、シールを用いない授業の案を考えることを検討したい。



EV3 を操作中の小学生

## 今後の展望

今後の展望として小学校、幼稚園だけでなく、地域の児童館での教室を開く機会をたくさん設けるようにしたい。

出前授業を行った小学校、幼稚園以外の子どもたちにも体験できる場所を設け、プログラミングの面白さ、仲間と一緒に取り組む楽しさを感じてほしい。